

まち塾通信

平成 25 年度第 2 号
H26. 3 発行

3月2日（日）に「高架下のしあわせ論」をテーマに立命館大学、西日本高速道路株式会社(NEXCO 西日本)と連携して、近畿自動車道の高架下を有効活用し、まちの活性化へとつなげる方策を参加者の皆さんと考えました。

「高架下のしあわせ論」

～明日の暮らしを考えてみませんか、このいばらきで。～

立命館大学周辺整備

茨木市都市整備部都市政策課 田邊課長



立命館大学大阪いばらきキャンパスが2015年4月に開学するにあたり、市では、JR 茨木駅東口駅前広場や都市計画道路などの周辺整備を進めています。

JR 茨木駅東口駅前広場では、学生の増加への対応や交流空間の創出のためデッキを架け替えエスカレーターの整備も進めています。また、大学へのアクセス道路とあわせ JR 東海道本線と交差する（都）茨木松ヶ本線や（都）西中条奈良線等の整備を進め、キャンパス周辺道路は、本市で初めてとなる自転車道が整備されます。

大学と隣接する岩倉公園は、災害時には一時避難所となる防災公園で、大学と一体感のある空間とし、地域との交流が活発に行われることを期待しています。

本日は、「高架下のしあわせ論」として JR 東海道本線から阪急京都線までの近畿自動車道の高架下を有効活用し、まちの活性化へとつなげる方策を参加者の皆さんと考えたいと思います。



近畿自動車道高架下
活用検討箇所



立命館大学大阪いばらき
キャンパス整備

学校法人 立命館 総合企画部
大阪茨木新キャンパス開設準備課長 長田 勝 氏

大阪いばらきキャンパスは、「地域・社会に開かれ、アジアと世界をつなぐキャンパスを目指して」整備を進めています。



新キャンパスの軸となる3つの教学
コンセプトとして

- ①アジアのゲートウェイ
- ②都市共創
- ③地域・社会連携

を掲げており、理論体系と実践事例
の共鳴による問題解決志向を教学展開
の特色としております。

開学当初の学部は経営学部、政策科
学部及び4つの研究科で学生数は約 6,000 人ですが、2016 年度には総合心理学部を設
置する予定となっており、2019 年度には7千数百人の学生が学ぶキャンパスとなります。

キャンパスランドスケープと
周辺地域の歴史

学校法人立命館キャンパス計画室 副室長
立命館大学 理工学部 建築都市デザイン学科
准教授 武田 史朗 氏

茨木市は、豊かな自然と歴史・文化的資源に恵ま
れたところです。

キャンパス東側には、古墳や古代の建物跡が多く
発見されている中条小学校遺跡があり、西側は、弥
生時代から古墳時代の集落跡である松ヶ本南遺跡に
含まれています。キャンパス整備にあたり埋蔵文化
財発掘調査を実施した結果、弥生時代や古墳時代の
墳墓の痕跡などが見つかかり、昔からこの地域に人が
暮らしていたことが確認できました。

また、市の土地利用状況を見ると、昭和 20 年頃は、JR 茨木駅や阪急茨木市駅周辺が市
街地であり、その周囲に田畑が広がっていました。その後の高度成長に伴い人口が急激に
増加し、今の市街地を形成したことが分かります。

このような歴史的経過を踏まえ、「新キャンパスの建物をどのように配置するかや防災公
園をどこに配置するのか」を市や各関係者と長い時間をかけて協議し、現在のキャンパス
計画となりました。

現在、市域の北部で進められている新名神高速道路の整備により失われる里山に自生す
る苗木を「里山サポートネット・茨木」のご協力のもと育てており、開学にあわせてキャン
パス内に植栽し、茨木の里山を再現するプロジェクトを実施しています。



近畿自動車道高架下の活用検討

西日本高速道路株式会社 関西支社
総務企画部 事業開発課長 伊藤 敏雄 氏

近畿自動車道高架下活用検討箇所は、人通りも少なく、薄暗く、ごみが散乱し、犯罪を



誘発しやすい環境になっていることから、大学の開学にあわせ、通学環境の安全性の向上と「まちのにぎわいづくり拠点」や「市民と学生の交流の場」等として利用することを目指しています。

これまで2回にわたり「近畿自動車道高架下有効活用に関するワークショップ」を開催し、「学生と地域住民とのふれあいの場」、「情報発信基地」、「大学から駅までの学生の居場所」、「憩いの場（カフェ等）」などの意見が出ています。

本日、参加された皆さんから素晴らしいアイデアが出ることを期待しています。

学生によるフィールドワークの結果報告

立命館大学 デザイン科学研究センター
センター長 善本 哲夫 氏

学生が近畿自動車道の高架下や奈良公園の現地調査を行い、「地域固有のコンテキスト（背景）を掘り起こす」ためにフィールドワークを実施しました。奈良公園、春日神社、高架下を一体的に活用することを前提に高架下周辺の地図を作成しました。



●学生発表

- ・高架下を活用するためには、大阪中央環状線の側道を横断しなければならず、危険なため、側道の付け替えとみどりやにぎわいの空間づくりを行う。
- ・高速道路を屋根とみなし、雨天時でも運動出来る空間に整備する。ただし、排気ガス等で空気が汚れているため大型の空気清浄機を設置する。また、ボール等が道路に出ないようにフェンスも設置する。
- ・高速道路の橋脚の周囲に本棚を設け、人が安らぐ空間にする。
- ・春日神社の参道に松を植栽し、昔の雰囲気をも復元する。



参加者でワークショップ

立命館大学 経営学部
准教授 八重樫 文 氏

これからワークショップを行います。皆さんの緊張を解くためにグループ内で自己紹介を行っていただきます。

- ①氏名 ②年齢・職業（差し支えない範囲で） ③茨木市在住年数 ④立命館大学生が来たらぜひ紹介したい茨木市のオススメ場所・スポット・お店など ⑤立命館大学と一緒に改善したい茨木市のこんな場所・環境 ⑥学生発表に対する感想

の項目で自己紹介を行って下さい。

自己紹介を行い、皆さんが仲良くなったところで、これからの高架下のあるべき姿の「キャッチコピー」を考えたいと思います。グループ5人のそれぞれの役割分担は、

- ①とにかく量（アイデアの質より量を重視する）
- ②ツッコミ禁止（他人のアイデアを批判しない）
- ③ボケ放題（アイデアを多く出すための工夫）
- ④他人の意見に乗っかる
（アイデアを多く出すための工夫）
- ⑤オキテを守る（ルールに基づいた進行）
です。



では、ブレインストーミングを行います。高架下のあるべき姿に必要なキーワード

- ①名詞（カフェ、図書館、安心、安全…）
- ②形容詞・副詞（楽しい、うれしい…）
- ③動詞（落ち着く、座る、休む、運動する…）
- ④その他

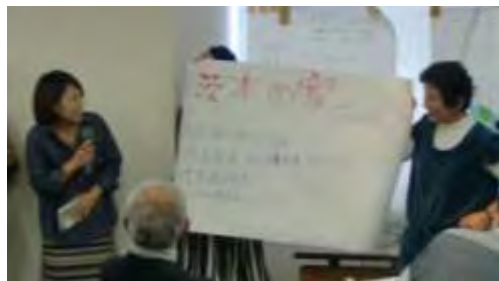


を順に書き出して下さい。

そして、出てきたキーワードをもとに、これから高架下に関わるいろいろな人たちの求心的なコンセプトとなる「キャッチコピー」を考えて下さい。

【発表】

- ・みんなが集う、ニュープレイス
KNI3.00（ケニスリー・ドット・オーオー）
（K：気持ちよく・N：なかよく・I：居れる300m）
- ・いのち輝くヒミツキチ
- ・スモールスマートシティ
- ・発見 集う 安心・全な高架下
- ・うれしいな、いま、ここにいること
- ・車輪の下を考える「世代を越えた夢空間」
- ・ワクワク ドキドキ
まつり（まごころ、つどい、りっつ）ごころ
- ・茨木の家



◆発行・編集◆ 茨木市 都市整備部 都市政策課
〒567-8505 大阪府茨木市駅前三丁目8番13号
茨木市役所南館5階
電話：072-620-1660 FAX：072-620-1730
E-mail：toshi@city.ibaraki.lg.jp